

# 第106回全国高等学校野球選手権宮城大会

□大会第11日目 7月18日(日)

準々決勝	仙台市民球場	2時間 7分		打安点盗犠四三残失併
東 陵	0 0 0 0 1 0	0 0 0	1	【東】 37 11 1 1 2 3 3 14 0 0
聖 和 学 園	0 0 0 0 0 1	1 0 X	2	【聖】 27 9 2 0 6 2 5 9 1 0
(球) 雁部 博昭 (一) 西山 充 (二) 浅野 卓也 (三) 新田 健治				▽本塁打 なし
【東】 眞壁,熊谷太	—	三宅		▽三塁打 なし
【聖】 齋藤佑,千葉	—	遠藤		▽二塁打 なし (東)
▽暴投 なし		▽捕逸 なし		なし (聖)

【評】

雨のため、約2時間ほど遅れて始まった準々決勝第2試合は、先制したのは東陵だった。5回表先頭の飯塚がライト前ヒットで出塁すると、上位打線がつないで1点をもぎとった。聖和学園は6回裏に先頭の三浦がレフトへのヒットで出塁すると、2番中善寺が犠打で送り、続く3番遠藤のライト前ヒットで同点とした。さらに7回裏にもこの回からマウンドに上がった東陵の熊谷を攻めたて、逆転した。5回途中から登板した聖和学園のエース千葉桜太は、毎回のようにランナーを背負いながらも要所要所を抑え、力投した。

準々決勝	仙台市民球場	2時間 1分		打安点盗犠四三残失併
東北学院榴ヶ岡	0 0 0 0 0 0	0 0 0	0	【学】 31 6 0 0 1 0 6 5 0 0
古 川 学 園	0 0 1 0 0 0	0 0 X	1	【古】 31 8 1 1 0 3 2 9 0 0
(球) 山館 浩樹 (一) 鴛田 代志昭 (二) 三浦 徹 (三) 浅野 卓也				▽本塁打 なし
【学】 佐々木健	—	澁谷		▽三塁打 高島,渡邊悠(古)
【古】 木谷,佐藤遥,秋山	—	高島		▽二塁打 川脇 (学)
▽暴投 木谷1(古)		▽捕逸 なし		黒沢 (古)

【評】

7月18日の第1試合が雨のため、今大会初の継続試合となった。東北学院榴ヶ岡の1回表の攻撃は二死2塁からライト前ヒットでホームを狙うも古川学園のライト関屋君の好返球でホームはアウト。1回裏の攻撃に移る時に雨のため中断1時間38分後に天候回復が認められず、継続試合に。翌日は1回裏古川学園の攻撃から開始。また、2回表からは古川学園は早々投手交代先日先発した木谷君に代わり左腕の佐藤遥輝を登板。その佐藤君が東北学院榴ヶ岡の打線を封じ、6回まで散発3安打無失点に抑える好投。その安定したピッチングで攻撃にも良い結果が表れる。先制したのは古川学園。3回裏一死3番の菊地がレフト前ヒット、続く4番加藤もレフト前ヒットでつなぎ迎えた5番黒沢がレフトへ痛烈なライナーを放ちヒット。ホームは厳しいタイミングかと思われたが、コーチャーは迷わず回し先制のホームイン。見事な3連打で本日唯一の得点を挙げる。7回からはセカンドの守備から登板した秋山君が3回を1安打に抑える好投。古川学園は2日で3人による継投で強打の東北学院榴ヶ岡を完封。古川学園は2大会ぶり3回目のベスト4進出。東北学院榴ヶ岡は6回に2安打を集め、二死1・2塁のチャンスを掴むも後続が凡退。好投した左腕佐々木健斗君は報われなかった。両チームとも無失策のレベルの高い投手戦の好試合であった。

準々決勝	石巻市民球場	2時間 12分		打安点盗犠四三残失併
仙 台 育 英	2 2 0 0 0 0	1 0 0	5	【仙】 33 9 4 1 1 4 2 6 0 0
柴 田	1 0 0 0 0 0	0 0 0	1	【柴】 31 3 1 0 0 3 8 6 0 0
(球) 三浦 徹 (一) 布田 秀斗 (二) 佐藤 圭 (三) 曾根 徳明				▽本塁打 なし
【仙】 佐々木広,内山	—	川尻		▽三塁打 鈴木,濱田(仙)
【柴】 藤田,阿部	—	佐藤遥		▽二塁打 登藤,鈴木 (仙)
▽暴投 佐々木広1,内山1(仙)		▽捕逸 川尻1(仙)		なし (柴)

【評】

中盤から雨足の強まる中、序盤に奪った点を確実に守り切り仙台育英が勝利した。仙台育英は初回到り相手投手藤田の不安定な立ち上がりを見逃がさず、四死球と4番鈴木3塁打で2点を奪った。2回にも相手の四死球から内野安打等を含め2点をあげ、試合を優位に進めた。7回にも1番濱田の3塁打を、3番で主将の湯浅がスクイズで着実に加点し、強打だけでなく手堅さも見せつける形となった。後攻の柴田も初回到り相手投手佐々木広の立ち上りを攻め、四球で出た走者を5番の齋藤が返し、拮抗した試合が予想された。しかし、その後は3回の伊東以降は安打が出ず、完全に抑えられる形となった。

準々決勝	石巻市民球場	1時間 55分		打安点盗犠四三残失併
仙 台 東	0 0 0 0 0 0	0 1 0	1	【東】 31 6 1 0 2 0 1 5 5 1
仙 台 商 業	0 0 1 2 0 0	2 0 X	5	【商】 29 8 4 2 4 5 0 9 0 0
(球) 森山 宏則 (一) 野田 学 (二) 水戸 恭平 (三) 菅原 幸				▽本塁打 なし
【東】 橋間,佐藤耀,阿部,渡邊	—	荒川		▽三塁打 なし
【商】 大友	—	山路		▽二塁打 なし (東)
▽暴投 阿部1(東)		▽捕逸 なし		山路,加藤直 (商)

【評】

小雨が降る中、小刻みに得点を重ねた仙台商業が勝利した。仙台商業は、3回、9番山路の2塁打を足掛かりに1番佐々木の犠飛で先取点を挙げたあと、4回には仙台東の守備の乱れを突いて2点を追加した。更に7回には2つの四球をからめて4番郷家の2点タイムリーヒットで仙台東を突き放した。投げては先発の大友が無四球完投でチームの勝利に貢献した。仙台東は8回に1アウト1、3塁から1番荒川のセンター前ヒットで1点を返したが、その後が続かなかった。